

龍源寺報

令和5年（2023年）春彼岸号

臨濟宗・妙心寺派	住職 松原信樹
佛母寺住職 松原覺樹	正福寺住職 松原行樹
TEL	3451-1853
FAX	3451-6094

振込 00160-0-104918

東京都港区三田5丁目9-23（郵便番号 108-0073）

Email: info@ryugenji.com

URL: http://www.ryugenji.com

春彼岸におもう

龍源寺住職 松原 信樹

中国・宋代の『大川普濟禪師語録』に「座を下るとき、僧堂を巡るとき、お茶をいただくとき、おのの脚下を見よ」とあります。「脚下きやつかしようこ照顧」といわれ、禪寺に行かれた時に、玄関をはじめ履き物を脱ぐ場所かで、この文字をご覧になったことがあるかと思ひます。龍源寺の玄関にも、先代の天現寺ご住職の揮毫した置物がございます。

禪宗では、足元あしもと（脚下）をしかと見よ、本来の自己をしっかりと見つめよ、己の立脚するところを見失うことのないようにといった意味合いで用いられています。

立つ、座る、歩く…全てにおいて、足元というのは、一番身近であり、大切でありながら、普段はそれになかなか気づきません。しかし、そうした何気ない瞬間ほど、その人の心や生きる上での覚悟のようなものがはつきりと顕れます。日本では、履き物を脱いで家にかかる習慣ですので、そのひとときをバタバタ無造作にせず、ひと息おいて脱いだ靴をきちんと揃える。他の人の分まで揃える。それだけで、自分を静かに見直すことができます。

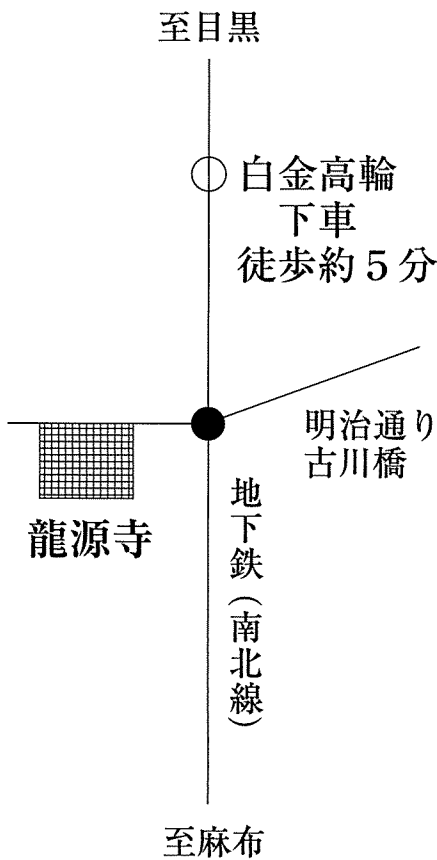
中国・宋代の詩人である載益たいえきの「探春」の詩を紹介させていただきます。と思います。

終日尋春不見春 終日春を尋ねて春を見ず
杖藜踏破幾重雲 藜を杖つき踏破す幾重の雲
歸來試把梅梢看 歸り来たりて試みに梅梢を
把りて看れば

春在枝頭已十分 春は枝頭に在って已に十分
一日中春を尋ねて歩いたが、春は見つからなかった。あかぎの杖をついて幾重にも重なる雲を見ながら歩きつくした。ところが、家に帰って試みに梅の梢を手にとりて見たら、春は枝頭に在ってすでに十分であった。

この詩は単なる、探春の詩としてではなく、真理を探究しようとして多くを学んだ結果、真理は近くにあることに気づく。つまり、遠くに真理や悟りを探し求めるのではなく、自分の足元に感動というものものが隠されていたことに気づいたとも解せるのです。

足元をすぐわれないためにも、そして、不安とうまくつきあうにも、じっくり自分の足元をみつめることが肝要なことなのだと思う今日このごろです。



春ひがん法要

一、三月二十一日・春分の日（午前十一時より）

一、法話

・駐車場はありません。南北線をご利用ください。

龍源寺への交通の便（地下鉄）

● 都営三田線

（目黒または三田、南北線は白金高輪駅下車。徒歩五分）

● 2番出口から地上に出ると案内看板に「龍源寺」名あり

龍源寺への交通の便（都バス）

● 田 87 渋谷駅ー田町駅 魚ラン坂下下車

● 都 06 渋谷駅ー新橋駅 古川橋下車

● 品 97 品川駅ー新宿駅西口 魚ラン坂下・古川橋下車

● 反 96 五反田駅ー品川駅ー六本木ヒルズ（循環）

魚ラン坂下・古川橋下車

● 東 98 東京駅丸の内南口ー目黒駅 魚ラン坂下下車

納骨堂の標識の看板が立ちました。

納骨堂標識

第13号様式(第9条関係)

納骨堂計画のお知らせ(新設)			
納骨堂の名称	水月堂		
建設予定地の所在地	東京都港区三田5丁目64番8, 9, 11		
納骨堂の計画概要	敷地面積	117.13m ²	
	建築面積	48.51m ²	
	延床面積	88.66m ²	
	階数	地上 2 階、地下 0 階	
区画数	600区画		
墓地等経営許可申請予定日	令和5年5月26日	着工予定日	令和5年5月31日
		完了予定日	令和5年9月30日
申請予定者の名称	龍源寺		
申請予定者の所在地	東京都港区三田5丁目9-23		
標識設置年月日	令和5年2月18日		
○この標識は、港区墓地等の経営の許可等に関する条例第16条第1項の規定により設置したものです。			
○この計画についてのお問合せは、下記に御連絡ください。 (申請予定者連絡先) 電話 03-3451-1853 責任者 龍源寺 松原 茂樹			

墓地標識

第13号様式(第9条関係)



墓地計画のお知らせ(新設)			
墓地の名称	龍源寺墓地		
建設予定地の所在地	東京都港区三田5丁目64番8, 9, 11		
墓地の計画概要	敷地面積	117.13m ² (うち墓所32.73m ²)	
	建築面積	0 m ²	
	延床面積	0 m ²	
	階数	地上 0 階、地下 0 階	
区画数	14区画		
墓地等経営許可申請予定日	令和5年5月26日	着工予定日	令和5年5月31日
		完了予定日	令和5年9月30日
申請予定者の名称	龍源寺		
申請予定者の所在地	東京都港区三田5丁目9-23		
標識設置年月日	令和5年2月18日		
○この標識は、港区墓地等の経営の許可等に関する条例第16条第1項の規定により設置したものです。			
○この計画についてのお問合せは、下記に御連絡ください。 (申請予定者連絡先) 電話 03-3451-1853 責任者 龍源寺 松原 茂樹			



春彼岸会を迎えます。皆さま
まいかがお過ごしでしょうか。龍源寺の境内に隣接する形で納骨堂と龍源寺住職歴代墓地を計画しています。

先月の二月十八日に看板を設置できるようにになりました。お檀家様で建築家の山本哲也氏、総代の北村行夫弁護士に深く感謝申し上げます。▼遡ること、明治四十一年（一九〇八年）、当時の東京市の奨励により、全ての龍源寺の墓所を近隣の寺院へ改葬致しました。松原祖来師、泰道師、哲明師を経て、私が副住職に就任した平成一〇年より、世間では、墓地から合同墓地への改葬が増える傾向にあり、今ある現状と同等の墓地形式での合同墓では、今後予想される納骨の収納スペースが確保できないことから、龍源寺の境内に隣接する土地に納骨堂を建立する旨を令和二年（二〇二〇年）三月二〇日、責任役員会で協議し、龍源寺敷地の一部に檀信徒専用納骨堂を建設し、歴代住職の墓地、（寺族の墓地、合同墓）を併設

することを説明し、その可否を諮ったところ全員異議無く承認可決致しました。つまり、明治四十一年（一九〇八年）より、一五年ぶりの事業ともいえる龍源寺では大変大きな事業となりました。納骨堂の建設地は、私が住職を交代した時に、縁があつて借地権を買い戻した土地でした。ちょうど、令和七年（二〇二五年）に、龍源寺創立、三五〇年を迎えるので大変ありがたく思っております。お檀家さまの皆さまが、お彼岸やお盆での本堂法要後、そのまま納骨堂にお参りしていただけたらと思っております。居心地が良く、故人の存在を感じられる建物にしたいと思っております。古川橋周辺の再開発によって、建物の高層化という問題はあるのですが、地域の文化資源の一つとして龍源寺を捉え、境内の樹木を大切に、今後とも境内整備に努めていきたいと思っております。未熟者ですが、皆さまのご協力宜しくお願い申し上げます。▼祖母の四十九日法要・納骨を無事、北鎌倉の雲頂庵ですませることが出来、安堵

しております。私自身、お正月は喪に服してました。家内は、会社の仕事と育児、お寺の仕事で忙しくしています。母は、家内が仕事で留守の時は、娘の幼稚園のお弁当、洗濯などをしてくれています。母もお茶のお稽古や二月は地元紙の取材で忙しかったのですが、三人で助け合いながら、娘のこと、自分の仕事のこと、お寺の仕事をしています。娘の瑞樹は、今春より白金の三光坂にある小学校に入学致します。四月が楽しみです。新しいランドセルの皮の匂いに新学期を迎える懐かしさを感じます。▼三月二十一日、午前十一時より春彼岸会を厳修致します。堂内ではマスクの着用、サーモグラフィでの検温をお願い致します。外階段を使つての外からの御焼香もできます。もちろん御来山いただかなくても、ご連絡いただければ御回向させていただきます。寺族一同お待ち申し上げます。また、お彼岸のお齋のちらしずしは、しばらくの間、お休みさせていただきますと思います。よろしくお願ひ申し上げます。（信樹）